

昭和医科大学烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病 院 長 真田 建史

〔編集責任者〕広報委員長 真田 建史

〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕03-3300-5231(代表)

第220号

〔2025年12月1日〕

病院見学会の報告

精神医学講座 准教授 常岡 俊昭

2025年10月23日 今回は同日に東京で行われていた日本アディクション学会に合わせて、恒例の病院見学会（アディクション編）を行いました。この会は地域、医療機関、行政、自助団体などのどこの機関からも連携されやすい病院を目指して4年ほど前から行っていますが、この会の一番大きな特徴は「実際に入院されている患者さんと一緒に説明する」です。入院中で協力を了解してくれた当事者に参加してもらい「医療者はこう言っているけど入院している側からするとこうですね」など直接参加者からの質問に答えてもらいます。今回も入院患者2名、退院して通院されている方1名の計3名が協力してくれました。



病院見学会 情報提供中の様子

真田院長の挨拶、常岡・木下看護師・宮本看護師・葎口看護師・石山精神保健福祉士・古屋薬剤師から一人10分くらいで当院の依存症治療を駆け足で説明してもらった後に、病棟と作業療法室の見学を行いました。

作業療法室では施設説明の後に、当事者たちへの質問時間を設けました。その中で「このプログラム要らないって思うものはありますか？」など医療者の前では答えにくそうな質問にも正直に答えてくれました。

病棟の見学では、空いている実際の入院部屋を見てもらいましたが、その際も入院中の患者さんが説明を手伝ってくれました。

今回は様々な分野から計53名に参加頂きましたが、大阪から三名の市会議員（辻よしoka議員、佐々木哲夫議員、西のりひと議員）にも来て頂きました。最近では自助グループに参加しやすい病院として地方から当院に来て頂く患者さんも多いのですが、各地域にも同様の病院ができて切磋琢磨できると利用者にとってより良い環境になるのではと思って期待しています。

依存症治療の肝は「顔の見える連携」だと思っていますが、依存症治療の最も楽しい点は「最初は死にような状態で来た当事者がしばらくすると連携相手になる」ことだと思っています。入院して格好良く回復して、仲間として一緒に何かを行う瞬間は医療者としては最高に楽しいなと思っています。今回も協力して頂いた3名の方に感謝しています。

初年次実習の報告

事務課 石川 智貴

昭和医科大学では、1年次全寮制の全人教育を実施しております。ここでは、学部が違う4人が同じ部屋で過ごし、他者への思いやりと共生のこころを育むとともに、幅広い視野を養い、医療人としての基礎を身に着けることを目的に取り組んでいます。その教育課程の一環で、チーム医療で活躍する人材育成を目的とした、初年次体験実習があり、当院でその実習が行われました。

本実習は、9日間実施され、合計36名の学生が参加しました。

実習内容としては、「烏山病院の概要」をはじめ、当院にある各部署の役割に関する講義から、施設見学です。

学生の皆さんは、講師の先生方の話を熱心に聞き、わからないことがあればすかさず質問するなど、意欲的に実習に臨んでいました。そのような学生の熱意に感化され、実習対応した職員もより一層業務に対して活気がでてるなど、とても意義深い実習となりました。

今後も、当院は、診療と同じように、未来の医療人育成にも邁進してまいります。



リハビリセンター見学中の様子



臨床薬理研究所見学中の様子

東京 DPAT 訓練参加の報告

事務課 石川 智貴

当院には、災害派遣精神医療チーム（DPAT）という、自然災害や事故など集団災害の被災地に入り、精神科医療及び精神保健活動を支援する資格をもつ医療従事者がいます。

この度10月18日（土）に新規資格取得者向けの東京都 DPAT 養成研修が東京都立中部総合精神保健福祉センターにて開催され、当院職員が1名参加しました。

この研修では、災害時の医療でどのようなことをしなければならないのか、DPAT 隊員として、何をしなければならないのか等の講習と、演習を通して災害医療の基礎を学ぶ内容となっております。

当院は東京都災害拠点精神科連携病院であり、東京 DPAT 協定締結医療機関となっております。患者の皆さんに安心して診察を受けていただくために、年に2回院内の防災訓練を実施するとともに、こうした外部の訓練に参加し、防災意識を高めるため、日々研鑽をしております。

新任・異動者紹介

精神科 医師 やまざと 山里 ゆたか 優

この度令和7年4月より昭和医科大学烏山病院に移動になりました。昨年度は昭和医科大学横浜市北部病院で研鑽に励んでおりました。出身は沖縄で沖縄尚学高等学校から琉球大学医学部へ進学し初期研修も同大学病院をへて専攻医から昭和医科大学でお世話になっております。趣味は料理と釣りでしたが、一人暮らしで手狭な台所で料理をする機会も減り、また海も遠くなかなか釣りに行く機会もなく、絶賛引きこもりに拍車がかかっている今日この頃です。烏山病院に赴任するにあたり、単科の精神科病院での勤務経験がないため総合病院とのギャップで至らぬ点もあると思いますが、温かい目で見守っていただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

コラム連載（第4回）

こちらは、当院で働く様々な職種の方に、当院にまつわるお話や、メンタルヘルスに関することなど幅広い形で情報提供をさせていただく企画です。第4回は、当院精神科医局長である、杉田秀太郎氏に執筆してもらいました。

より良い地域医療を目指す当院の歩み

昭和医科大学烏山病院 精神科医局長 杉田 秀太郎

昨年度より主任教授が交代し、若い医師が多く着任したことで、当院にはこれまで以上に新しい活力が生まれています。診療体制もより機動的となり、急性期病棟を中心に入院件数は順調に増加しています。加えて、ECT治療はこの数年間で累計1,000件を超え、急性期医療の質向上に大きく寄与しました。

今後は外来でのECT施行も可能となり、自立支援制度の活用により患者様の負担軽減にもつながる見込みです。また、外来では睡眠ポリソムノグラフィー検査が行えるようになり、不眠症の背景に潜む睡眠時無呼吸症候群の診断が可能となりました。診断後は東病院の専門外来と連携し、より適切な治療につなげる体制も強化しています。

さらに、今年から進めている改装工事も段階的に進行しており、外装に続き、来年初頭には外来レイアウトが新しく生まれ変わる予定です。より快適で安全な環境を整えることで、患者様が安心して医療を受けられる場をつくってまいります。

今後は地域との連携も深め、予防から治療、回復支援まで一貫した医療提供を目指して取り組んでいきます。地域の期待に応え、より良い医療を提供できるよう努力を続けていきます。

デイケア活動

(K.S)さん

今回は、私 (K.S) がメンバーさんの昼休みの過ごし方について、紹介したいと思います！ (‘ω’)

午前のプログラムが終わり、昼ごはん（大体 11 時 30 分から 12 時ぐらいまで）が終わった後から午後のプログラムの始まる 13 時 30 分までの間に昼休みがあります！

また、昼休みの同じ時間にもプログラムがあったりしますが、ここでは割愛します。昼休みは、メンバーさんそれぞれいろんな過ごし方をされています。

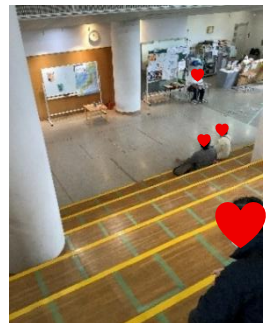
1 階にあるホールやラウンジで談笑しながらお菓子を食べている方、手工芸をしている方、将棋や囲碁または 2 階で麻雀をして楽しんでいる方、卓球をしている方、Switch やスマホなどの電子機器でゲームをいる方や音楽を聴いたりしている方、ネットを見て過ごしている方もいます。それぞれ好きなことをしてコミュニケーションをとったり、交流していたり、時間を有意義に使っています。

個人的に麻雀や将棋は楽しそうですね！

いつも皆さん、毎日同じような過ごし方をしているかなと思いますが、

私は、昼休みの自由な時間ではいつもスマホで音楽聞いたり、Youtube を見ていたりしてお昼休みをゆっくり過ごしています！

そして、私は人と交流するのがあまり得意ではないのですが、今後はお昼休みにも交流を増やせることが出来るように頑張りたいです！ (*^o^*)



《10 月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延 患 者 数 8,615(8,581) 6,920(6,461)

◇一日平均患者数 277.9(286.0) 269.2(269.2)

◆診療実日数 31(30) 26(24)

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

診察時間：月曜日～土曜日 8 時 30 分～17 時

電 話：月曜日～土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日 8 時 30 分～14 時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。こちら烏山病院のホームページの QR コードとなります。ぜひご覧ください。



烏山病院精神医学講座Instagramが開設されました。
随時情報を発信していきますので、
どうぞよろしくお願いいたします。



【編集後記】

今年も残すところわずかとなりました。街のイルミネーションがクリスマスモードになり、日ごとに年の瀬を感じています。日本のクリスマスは、海外と比較して宗教色が薄く、「海外の良いところ取り」で楽しむ点が特徴と言われますが、そこに日本らしい多様性が表われていると思います。

10 年前、スペインに留学していました。この時期の街はバレン（キリスト誕生場面を再現した人形）で彩られ、長いクリスマス（12 月 24 日～1 月 6 日）が始まります。世界最大級の宝くじに沸き、イブとクリスマスを経て、大みそかには深夜 0 時の 12 回の鐘に合わせてブドウを 12 粒食べて、新年を迎えます。フィナーレとなる 1 月 6 日には子供たちがプレゼントを受け取り、ロスコンという特別なケーキを食べて、長いクリスマスが締めくくられます。日本のクリスマスも似通っている点が多く、多様性を大切にする文化を実感します。

2025 年巳年は皆さまにとってどのような一年だったでしょうか。我々は、来る 2026 年午年も多様性を尊重しつつ、新しい挑戦を続けてまいります。引き続き、よろしくお願いいたします

広報委員 真田 建史